

令和7年度 学校評価一覧

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>① 各部の系統性を踏まえ、一人一人に応じた教育の充実を図る。 ② 持続可能な質の高い教育活動を目指し、「働き方改革」を推進する。</p>		
<p>担当</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>最終評価（評価結果と課題）</p>
<p>総務部</p>	<p>・業務内容を見直し、「働き方改革」を推進する。</p>	<p>・各業務内容を見直し、仕事の効率化を図る。 ・印刷室の棚等、総務管轄の場所の整理をし、職員が使いやすいとする。</p>	<p>・学校だよりの内容を見直し、構成、回数等について変更案を作成することができた。次年度、案を元に作成してみて不都合等あれば改善していく。 ・給湯室、更衣室について不要な物等の整理等を行うことができた。今後も、不要なものが置いたままにならないように、毎年総務部で確認したり、全職員に周知したりしていく。 (達成度 80%)</p>
<p>教務部</p>	<p>・一人一人に応じた教材を用意し、児童生徒が目標達成を目指して意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・指導と評価の一体化をより意識して教育活動を実践することができるように、諸表簿の改善を通して学習評価の仕方について見直しを進める。</p>	<p>・教科・領域会を活用して、各部の実態や学習内容を把握できるようにする。 ・一人一人の実態に応じた教材を用意しやすいように、各教科、学年等で作成した学習プリントや、視覚支援教材などを集めて整理する。 ・学習評価を授業改善につなげることができるように、個別の指導計画の評価の時期等を見直す。</p>	<p>・教科会を活用して、学校のクラウド内に作成した教材庫フォルダに教材を集めることができた。また、活用状況や使いやすさについて職員にアンケートを行い、より使いやすいようにフォルダの分け方などを改善することができた。使用率が約5割であるため、今後も教材を充実させていき、児童生徒一人一人にあった学習教材を準備しやすいように来年度以降も試行錯誤を行っていきたい。 (達成度 90%) ・個別の指導計画について1年間検討を続け、来年度から前期・後期の区切りではなく、1学期と2・3学期で区切って評価を行うようにする。そうすることで、今までよりも評価できる期間が増え、さらに1学期の評価を踏まえて2・3学期の目標手立てを設定しやすくすることにつなげていきたい。また、通知表の作成回数についての検討も行い、来年度から記載内容に関しては、ほぼ変えずに年度末に1年間の評価を保護者に渡す形に変更していく。形は変わるが、今まで以上に諸表簿作成時から指導と評価の一体化を意識して教育活動を実践していきたい。(達成度 90%)</p>
<p>生徒指導部</p>	<p>・校内掲示板（いなざわスタンダード）の取組が、より児童生徒の身近に感じる教材となるようにする。</p>	<p>・生徒たちの望ましい行動に着目し、評価する場として活用したり、生徒指導に関わる情報を共有したりする。</p>	<p>・校内掲示板は、その特性上、文字の理解ができる高等部生徒を対象とした取組が中心となった。掲示内容は、児童生徒の興味や時事に合わせた情報を提示するよう努めた。また、全ての児童生徒に周知したい服装などの情報については、各部集会で視覚教材を用いて補足説明を行った。今後も、児童生徒が</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練と防犯訓練がより実践的な内容になるように内容を見直し、児童生徒の安全意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や犯罪などのいつ起きる分からない未体験の事象に児童生徒が備え、心の準備ができるように体験的な活動を設定したり、事前事後学習の内容を充実させたりする。 	<p>自ら考え、行動できる生活規範の確立を目指し、情報提示の方法をさらに工夫していきたい。</p> <p>(達成度 80%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間2回の防災訓練と毎月1回のシェイクアウト訓練は、安全教育の重要な柱となっている。「自分の命は自分で守る」という意識の育成は、着実に進めることができた。緊急避難速報の音は耳障りに感じるものだが、児童生徒には「命を守るための大切な音」であることを繰り返し伝えてきた。その成果として、ほぼすべての児童生徒が速報を聞いた2秒後には、身を守るための第1次避難行動を取れるようになっている。また、職員訓練では、緊急時の実践的な対応を考える機会を設け、個々の児童生徒に必要な支援を具体的に検討することができた。今後は、新校舎の増設に伴い、マニュアルや本部対応の変更について、実際の運用状況に合わせて検討し、具体的な方策を策定する。(達成度 80%)
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい福祉就労制度の理解推進、情報提供とそれに伴う進路指導を適切に行う。 ・進路関係表簿の見直しと改訂を行う。高等部実習の実施に合わせ、実習日誌や関係資料、表簿などの入力書式の変更・更新を行い、適切な評価に結び付けるとともに、表簿入力職員の負担軽減を図り「働き方改革」につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昇降口横の進路指導部掲示板を活用して、新制度の情報提供を積極的に行う。学区域内外の協力企業や福祉事業所などの資料を掲示して、情報提供する。 ・進路説明会での情報を、更に分かりやすい内容で提供する。 ・実習評価表など進路関係表簿の入力書式を改訂することで、生徒の実習に合わせて適切な評価を行うようにする。また、入力者の効率的な入力作業を行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新制度の説明動画につながるQRコードを記載した資料を、進路の掲示板や保護者や職員が頻繁に通る場所に掲示したことで、興味を持っていただけることが増えた。併せて、事業所や企業の資料なども掲示することで、立ち止まっている保護者や職員の姿を頻繁に見るようになった。(達成度 80%) ・小学部の説明会では、例年より簡単な内容にした。来年度は、事前に保護者にアンケートを取ることを考えている。(達成度 80%) ・実習評価用の入力書式を実習前に改訂し、反省のご意見をいただくことはなかったが、他のエクセル書式については複雑になりすぎ、壊れやすかったり、入力に時間がかかってしまったりするので、引き続き進路関係表簿の見直しと改訂を行っていくことが必要。(達成度 80%)
保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に応じた保健・安全教育や健康の保持増進の取組について、より一層の充実を目指す。 ・業務の見直しや改善を図ると共に、校務運営を円滑に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肥満指導や食育指導などの個々の健康課題や安全教育などについて、情報提供や指導内容の充実などを関係者と連携を図りながら進める。 ・各担当者と連携して、業務内容の見直しを積極的に行い、業務改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肥満や食べ方、歯磨きといった個別の健康課題に応じて、保護者や担任と連携したり、必要に応じて学校医に助言を求めたりして、個に応じた指導を進めることができた。(達成度 80%) ・担当する行事が終わるごとに反省や内容の見直しを行い、改善点について情報共有を図った。すぐに改善できることについてはすぐ改善し、業務改善に努めることがで

<p>教育支援部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒及び教員への校内支援の充実を図り、質の高い教育活動につなげる。 ・センター的機能の充実を図り、地域の関係機関と連携し、情報を発信、提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現職研修やケース検討会などを行い、校内支援を充実させることで、質の高い教育活動につなげる。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーについて周知し、ニーズに応じた連絡、調整を行う。 ・相談活動に活用できる情報資源の作成を進め、効果的に相談活動を行えるようにしていくことで、働き方改革を推進する。 ・巡回、指導検討会のための事例検討を行い、ニーズに応じた巡回相談を行う。 	<p>きた。(達成度 70%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季研修会では、外部講師を招いて子どもの主体性や意思決定支援について講義をしていただき、多くの教員の参加、学びにつなげることができた。今年度は中学部でも新たにケース検討会を行い、情報共有やチーム対応につなげることができた。(達成度 90%) ・通信を通して保護者や教員に周知を図り、新規の相談につなげることができた。(達成度 80%) ・来年度から情報資源(「支援の手引き」)を活用できるように、年度末発行に向けて原稿を作成することができた。(達成度 100%) ・必要に応じて教育支援部職員間で相談をしながら、巡回相談を実施できた。(達成度 80%)
<p>情報教育部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器や支援アプリを効果的に授業に活用した実践の充実を図る。 ・ICT・視聴覚機器・HPなどのWebサービス、アカウント管理等、各業務の保守・管理について見直し、負担が少ない校務運営を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員向けにICT機器や支援アプリを活用した実践の紹介や教材開発に関する研修会(夏季希望者研修等)を開き、誰もが取り組みやすい実践例を増やしていく。 ・児童生徒が主体的にICT機器や支援アプリを活用できるように、使いやすいアプリの準備や機器の設定など環境調整を行う。 ・各業務のまとめ方や分担を工夫し、特定の職員に仕事が偏らないようにする。 ・次年度担当者への引継ぎとして、簡単なマニュアルやスケジュールを作成し、ファイルサーバー上で共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期希望者研修で、児童生徒タブレットや教員用パソコンでのアプリ紹介や教材作り、実践例の紹介、AI利用についての研修を実施することができた。(達成度 90%) ・ICT機器の活用がスムーズになるように、カメラ等撮影機器の貸出については手書きの貸出簿に簡素化したり、いなざわフェスティバルの時期だけ、貸出用ワイヤレスアンプを増やしたりした。また、教員用PCの仕様変更で周辺機器との接続が不安定への対処では、簡単な接続動画やマニュアルを作って迅速に対応した。(達成度 80%) ・情報教育部会の際に、各業務の進捗状況を部会資料に載せて、可視化している。人手が必要な作業時には、日時を決めて担当者を中心に声を掛け合って対応している。(達成度 100%) ・各業務担当者は、業務引継の際、特に複雑な作業は、口頭説明だけにならないように各業務マニュアルを作成している。(達成度 80%)
<p>図書部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の環境の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態や職員のニーズに応じた図書資料の充実努めるとともに、誰もが利用しやすい図書室となるよう環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生面に配慮し、図書室内の椅子を清潔を保てる素材の物と入れ替え、安心して利用できるようにした。職員からも好評である。 ・季節に合わせた掲示を行い、親しみやすい環境作りをしている。図書室内外の掲示や、としょだより等で、新しく入った本やお薦めの本

	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の読書活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室オリエンテーションや読書週間等での取り組み、新しい図書や季節や題材に合わせた図書の紹介を通して、児童生徒と職員との積極的な図書利用を促すとともに読書活動の充実を図る。 	<p>を周知したり、絵本スタンドを活用して分かりやすいレイアウトを工夫したりすることで、使いやすい図書室との評価を得ている。 (達成度 80%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会の活動として、プレゼンテーションソフトを活用して図書の紹介を行ったり、図書室の利用方法についての紹介動画を制作したりした。また、読書週間等にお昼の放送で書籍の紹介などを行っている。 ・10月末に実施した読書週間において、図書室内にコーナーを特設するとともに、職員によるお勧めの本やテーマに関係する図書を紹介するなど、より多くの児童生徒が読書活動に興味を持てるようにした。読書週間中は、感想文、感想画を募集し、後日掲示した。周囲の人が鑑賞し、感想を伝えることで感想文・画を応募するきっかけとなったとの意見も聞かれたので継続していきたい。(達成度 80%)
<p>研修部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修では、職員の関心や必要性の高い内容を選んで計画する。 ・研究では、児童生徒の社会的・職業的自立に向けて、具体的な指導場面での授業展開や教材について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回の全校研修を計画し、4月「情報モラル」、6月「救護・救急法」、8月「アンガーマネジメントについて」、12月に「人権」「教材・教具展」を実施した。 ・「アンガーマネジメントについて」では、本校スクールカウンセラーを講師に、『怒り』についての考え方を整理し、適切な対処法についても学ぶことができた。 ・夏季休業中に夏季現職研修を実施した。自由参加だったが、多くの職員が参加し、専門性の向上を図る機会とした。職員の要望を聞いて必要な内容を検討し、他分掌とも協力してICT機器の利活用や授業で活用できる教材・教具の講座など18の講座を設けた。外部の機関や講師の協力を得た講座もあり、より専門性を高める機会になったと思われる。(達成度 90%) ・初めに、今年度の研究の目的や内容を説明し、研究の進め方について共通理解を図った。 ・職員各自で昨年度作成した「キャリア教育段階表(モデル案)」から育成したい能力や具体的な指導場面を考え、実践研究の計画を立てた。6月から12月にかけて、研究を進め、指導・支援の様子や成果、課題等を研究シートへまとめた。研究日(6月、10月、11月)に行うグループでの話し合いで指導・支援についての情報交換をしたり、計画の見直しをしたりした。

	<ul style="list-style-type: none"> 各業務について見直し、校務運営をより円滑に進められる方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各担当者と連携し、改善できる点がないか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の社会的・職業的自立と日頃の指導・支援を結び付けて研究することができた。研究日に他部の職員と話し合うことで、他部の様子が分かったり、系統性のある指導・支援について考えたりする機会となった。 研究日（1月）に、小グループで各自の実践について発表する機会を設けた。年度末には、今年度の取組みを総括し、全体の場でもいくつかの実践を紹介したり、研究シートのデータを職員全体で共有できるように整備したりすることで、より充実した指導・支援へとつなげられるようにしていきたい。 (達成度 90%) 各業務を昨年度の反省等を参考に、改善できる点がないかどうか見直ししながら計画・実施した。 来年度に向けて、今年度の取組の反省と担当者用のマニュアル作りを進め、よりスムーズに引継ぎ、計画・実施できるようにしている。 研修部会の資料を紙からデータで用意する方法へ変更することで、業務の効率化を図ることができた。 (達成度 90%)
<p>自立活動部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の指導の充実を図る。 円滑に業務を進められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動に関する研修会や相談会を行い、支援や指導に生かせるようにする。 自立活動室の教材・教具の紹介や使用方法の周知を行うとともに、資料を充実させ、閲覧しやすく整える。 各係のマニュアルをもとに仕事内容を整理、分担し、計画的に業務を進められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 8月に外部専門家を招いて、本校職員を対象に包括的性教育についての研修を行った。研修を録画し、より多くの職員が視聴できるようにした。自立活動相談会を実施し、新規採用者を中心に呼びかけを行い、自立活動の指導についての助言や効果的な教材教具についての情報提供を行った。今後も、職員のニーズに合わせた研修会を計画、実施していく。 (達成度 90%) 校内研修として夏季休業中に、自活部管理の教材・教具の紹介や体験、教材データの保存場所等の紹介を行ったことで、職員への周知を広めることができた。学校ホームページに掲載されている自立活動に関する資料の充実を図るとともに、幅広く活用を促していく。 (達成度 70%) マニュアルをもとに、各係で計画的に業務を進めることができた。今後も修正、更新を行っていく。 (達成度 90%)